

井田小学校と交流しよう

5月～11月(30時間)

1 ねらい

- ・岡崎市内の大規模校と交流することにより、自分達の住んでいる地域を振り返ることができる。
- ・相手に伝える方法を考え、話し合ったり計画したりしていくことができる。
- ・実際に訪問することで、他の地域の多くの児童と関わったり、学校の違いに気づいたりすることができる。

2 実践の概要

(1)「六ツ美中部のことを知らせよう」

1学期に井田小との交流のことを伝え、自分達の住んでいる、六ツ美地区や、六ツ美中部小学校のことを伝えるビデオレターを作る活動を行った。

4～5人のチームに分かれ、それぞれ伝えたいことを決め、どのように伝えたらよいか話し合いながら活動を進めていった。「地図の利用」「写真の活用」「劇化」「実物の紹介」「ペープサート」など、様々な方法を考え、誰がどんなせりふを言うのか、どんな動きをするのかなど自分達で考えていった。これらのビデオをムービーメーカーで編集し、井田小学校へ送った。



《話し合いの様子》

(2)「井田小学校と交流しよう」

11月12日を交流の日と決め、その日までに、パソコンを使って、各自の自己紹介のための名刺作りをした。名刺は、「キューブきっず2」の中にソフトがあり、ローマ字学習とも関連して楽しく取り組んでいた。

① 交流の流れ

- ・各教室での名刺交換
- ・グループごとの学校探検・・・4名ずつのグループが、井田小の児童4名とともに、学校の中を探検して回った。校長先生とも握手ができたチームがあったり、屋外の遊具で遊んだチームもあったりと、探検内容は様々だった。
- ・六ツ美中部小の学芸会披露・・・体育館で披露したが、3年生5クラス全員が見ているにもかかわらず、物おじしないで堂々と劇を紹介することができた。
- ・会食・・・六ツ美中部の児童は、お弁当持参で、井田小は、給食という形をとった。北部給食センターなので、配膳のしかたも違い、興味深く見ていた。
- ・昼休み・・・運動場で、ドッジボールの試合を行った。このころになるとうち解け始め、「もう友達になっちゃったよ。」という声も聞こえてきた。1対1の引き分けに終わったのもよかった。
- ・5時間目・・・井田小学校の3年生の学芸会を見せてもらった。学芸会は、音楽劇になっており、その音と迫力に圧倒されたようだった。



《名刺交換》

② 交流会を終えて

学校へもどって早速お礼の手紙を書いた。その文面には、学校の大きさや人数の多さにびっくりしたことや、友達になれたことの喜びが、あふれていた。後日、井田小学校の児童からも手紙が届き、「〇〇君へ」「△△さん」と、名指しの手紙にとっても喜んでいて。担任に、手紙の内容を見せてくれたり、「このお手紙。ぼくの宝物箱に入れよう」と大事に持ち帰った児童もいた。他校を知ることにより、改めて自分の学校や地域の良さに目を向けることもできた。

3 実践を振り返って

本校の3年生のテーマである「地域理解」を踏まえての、交流学习だったが、この活動を通して、地域を改めて見つめるきっかけになった。また、表現する力や、人と関わる力の育成の一助にもなった。本校と、井田小学校は、IP電話でもつながっており、3学期にはテレビ会議もできたらと考えている。